

1. 課題区分・管理番号 地域活性化課題 29-c005

2. 研究テーマ名 前橋を中心とした絹文化の周知

3. 研究期間 平成29年8月1日 ～ 平成30年3月31日

4. 研究代表者 工学部／建築学科 講師 臼井敬太郎

5. 課題提案者 上州文化ラボ 村上雅紀

## 6. 研究成果の概要

下欄には当該研究成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、地域課題研究事業計画書に記載した「研究目的」と「研究計画・方法」に照らし、A4で2～3枚程度で、できるだけ分かりやすく記載願います。文章の他に、研究成果を端的に表す図表を貼り付けても構いません。本学HPにて公表しますので、公表できる内容としてください。

本研究は、前橋を中心とした絹文化を調査において得られた知見を広く発信することで、前橋市民の歴史文化に対する関心を高め、シビックプライド形成に寄与することを目的としている。平成28年度の地域活性化研究を継続して、現代の前橋において必ずしも十分に認識されていない蚕糸業の歴史文化としての重要性に着目し、ストックして残る絹遺産や伝承されてきた文化について近代化遺産、文化遺産として再評価し周知する活動を行った。今年度に展開したのは、具体的には以下5つの活動である。(1)「前橋絹遺産MAP」の増刷と配布、(2)「見学会」など市民参加型の催しへの協力、(3)専門講座への講師協力、(4)「絹遺産周知ツールの開発」、(5)「まちなかキャンパス」の開催である。

(1)「前橋絹遺産MAP」(図1,2)は、現在、市内公共施設を中心に配布している。昨年度の研究成果物の一つである「前橋絹遺産MAP」について、写真と文章に修正を加えた上で3000部を増刷した。前年度に制作したMAPは既に在庫がなくなり、絹遺産周知ツールとして一定の役割を果たしていると考えてよいだろう。

(2)見学会「敷島・岩神地区の製糸工場跡を歩く～静脈から発見する製糸業～」は、NPO法人RAC/街・建築・文化再生集団、前橋工科大学 臼井研究室、上州文化ラボ共催で行われた。臼井の解説の後、参加者と地図を手に前橋市内の水路沿いに製糸工場跡を歩いた。市民学芸員をはじめ、前橋の歴史や文化に関心をもった市民など多数の参加があった。歴史的建造物だけでなく水路や町割りなどから歴史を読み解く面白さを共有することができた。

(3)専門講座として「駅前アンバサダー講座 街の愛し方、愛され方(平成29年11月)」「(けやき並木サロン、前橋市、企画：けやき並木サロン運営委員会)と「街並みと住まいの再考—絹遺産を生かす前橋を事例に—(平成29年12月)」「(飯田市旧測候所、長野県飯田市、企画：飯田市歴史研究所わが町の建築史ゼミ)にて臼井が講師を務めた。いずれも、

前橋市における事例報告として、蚕糸業を語る近代化遺産の鑑賞の仕方や糸の街の痕跡を発見していく都市の楽しみ方を解説した（図3）。

（4）「絹遺産周知ツールの開発」は、絹遺産を地域の宝として捉えられるよう、その魅力を広く伝えるためのデザインの提案を行った（図4）。具体的には「絹遺産スタンプラリー」、「建築ライティング」、「一夜だけ煙突のある街、前橋」、「シルクブランドロゴ」、「まゆボックス」、「手のり絹遺産建築模型」、「ぬいぐるみ絹遺産ツアー」、「弁当掛け紙デザイン」、「シルクカード」である。たとえば「絹遺産スタンプラリー」（図5）は、前橋の絹遺産や史跡を28のスタンプの絵柄に起こし、街歩きと市内回遊を促すツールに仕立てた。「まゆボックス」は、生糸の商標として流通していた生糸チョップのデザインを踏襲している。いずれも前橋の蚕糸業の歴史や栄華を、現代的に親しみやすくアレンジしたもので、街なかの賑わいや学びに資するツールとして利活用を期待するものである。

（5）「まちなかキャンパス」（平成30年3月、前橋市、前橋商工会議所共催）については、本年度の研究内容の総括として『デザインと音楽を通して探る前橋のシルク文化周知の可能性』（図6）と題して発表した。臼井からキャンパス会場である広瀬川美術館についての歴史的価値を解説した上で、前半はデザインによる絹遺産周知の提案として「絹遺産スタンプラリー」から「シルクカード」にいたるまで各周知ツールと各プロジェクト、そのねらいを各ツール制作担当者から発表した。これらは、今後、官庁や地元企業に働きかけて、実際に広報ツールとして実現・流通させていくことが今後の目標である。後半は音楽を通してシルク文化を学び直す機会とした。上州文化ラボの村上代表が前橋の蚕糸業の歴史とともにあった音楽について解説した。招待した音楽家の演奏（小野田賢三氏、石曾根靖氏、福西みゆき氏）と広瀬川美術館に所蔵される旧式の蓄音機の実演（近藤節氏）によって「糸引く娘」や「上州小唄」などが上演された。これら歴史に埋もれかけた職業歌や歌謡曲、民謡を通して蚕糸業が生み出した豊かな音文化を共有した。本研究の成果は、蚕糸業の歴史をいかに今日の地域活性化の資源として生かせるか議論の場を設定したことである。絹遺産周知ツールの作成と蚕糸業とともにあった楽曲の共有から歴史を生かした地域活性化のアプローチに可能性があることを示した。今後も前橋を中心とした蚕糸業の歴史を検証し、研究で得られた知見を地域活性化や地域振興に活用していきたいと考えている。

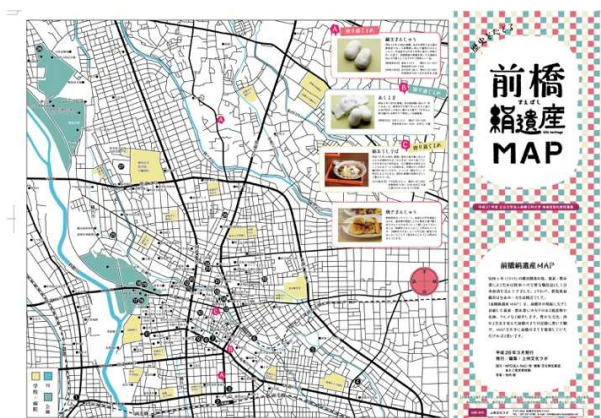


図1. 前橋絹遺産MAP（B4，表面）



図2. 前橋絹遺産MAP（B4，裏面）

# 街並みと住まいの再考

絹遺産を生かす前橋を事例に  
読み解く風景、聞き取る背景

ゲスト講師 白井 敬太郎 前橋工科大学工学部建築学科講師

日時  
12/14 [木]  
18:30 - 20:00

会場 飯田市旧測候所  
飯田市馬場町 3-411  
参加 無料



かつて蚕糸業で一時代を輝いた、群馬県前橋市。過去の栄光を懐かしむだけでなく、歴史や文化をものさしとして現代の街並みや建物を導く方法、ユニークな住まい方の事例を紹介し、地域を愛するヒント、人と人を結び知恵を共有する機会にしたいと考ます。

主催 | 飯田市歴史研究所 後援 | 飯田市  
〒399-0803 長野県飯田市南下山 538  
TEL: 0266-53-4670

図 3. 街並みと住まいの再考



## 絹文化周知ツールの提案



絹ブランドロゴ  
まゆボックス

弁当掛け紙

図 4. シルク文化周知ツール

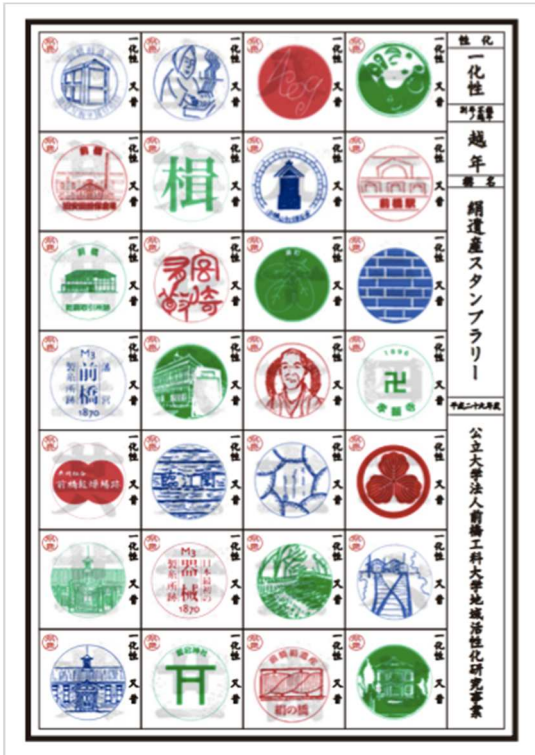


図 5. 絹遺産スタンプラリー



図 6. まちなかキャンパスリーフレット

